

輸入解禁で質向上

先日、山形に行く機会があった。ちょうどサクランボのシーズンで、地元はサクランボに関する様々な活動で盛り上がっていた。地元の経済界の方のお話では、サクランボのこのシーズンには全国や海外からいろいろな人が訪れ、地元でもいろいろなイベントがあり、お祭りのような状況であるという。

山形のサクランボのブランド力はたいしたものだ。まだ少し早いシーズンには、デパートで1箱1万円というような値段がついている。自分の財布で買うような値段

伊藤 元重

機構開発研究 東大教授  
合研 東大教授  
総理事 東大教授

ではないが、まれに頂き物をすることがある。1粒200円か300円と厚くと、食べるのが惜しくなる。もっとも、これだけ高い値段がつくのははしりの時期だけであり、旬の時期になれば、スーパーにもたくさんサクランボが並ぶ。おいしいので、つい買ってしまつ。

山形のサクランボに続け

だいぶ前の話だが、米国のチェリーの輸入を自由化するというところで、国内のサクランボの生産は大丈夫かと、大騒ぎになったことがある。しかし、自由化をしてみたら、米国产のチェリーと山形のサクランボは、まったく違うものであった。チェリーを自由化した

後の方が、山形のサクランボの生産者ももっと元気になっているような気がする。これも地元の人が言っていたが、山形のサクランボも以前は缶詰などに使うものが主流であった。せっかくなので栽培しても、高い価格で売ることができないものではなかった。しかし、チェリーの輸入

力を受けて、生産者の競争力が強くなるというケースはいくつもある。米国とカナダが自由貿易協定を結んだとき、カナダのワインは米国のカリフォルニアのワインに席巻されてしまつたのではないかと言われた。しかし、カナダのワイン生産者は、米国のワインとまともに競争でぶつかるとワインを生産し続けるのではなく、米国とは違ったワインを生産する方向を模索したのだ。

競争が成功を生む

寒冷地であるカナダの特徴を生かし、デザートワインであるアイスワインの生産に取り組んだのだ。結果的には、カナダは世界有数のアイスワインの生産地となり、いまやアイスワインはカナダ

を代表する輸出食品となった。カリフォルニアワインという強力な競争相手がいるので、あえてそれとの違いを出せる産品を模索したことが成功につながった。山形のサクランボも米国のチェリーとは似て非なるものであるから、多くの消費者から高い評価を得ている。もし貿易自由化という競争がなければ、山形のサクランボもカナダのアイスワインも、こんなには成功していなかったのかもしれない。

TPPへ日本が参加することになれば、農業分野では自由化が進むことになるだろう。競争が激しくなることは大変なことではあるが、これを機会に第2、第3の、山形のサクランボのような商品が出てくることを期待したい。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。